

「運動好きな子どもを育む」ための町立保育園での実践例（運動あそびタイムの設定・保育士の指導技術向上・保護者の運動に対する意識変容）

学校名 東郷町立保育園 全8園（愛知県）

全校幼児数 534名（男児300名 女児234名）
（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0561-38-3111

メールアドレス tgo-gakko@town.aichi-togo.lg.jp

1 研究のねらい

幼児期の運動促進と子供の基本的な動作の獲得状況及び、保育士の指導技術向上、運動に対する保護者の意識変容等をねらいとする。

2 研究の概要

生涯にわたって運動を楽しむ基盤を育成するためには、「子供」「保育士」「保護者」への働きかけが重要。子どもに関わる大人の運動に対する意識を共有し、幼児期に必要な要素を楽しく養っていく。

○実践プログラムの紹介

■ 体を動かす機会の確保

1) 保育時間内に運動あそびタイムを実践



2) 親子体操の実施



3) 保育士の研修



○幼児の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 「保育士研修により安全に運動する指導技術を共有」 幫助の基本技術、器具等の安全配置、子供の動線、周辺視野の拡大、状況の予測、瞬時の判断など。
- 2 保育士自主的研究グループを組織し、指導技術の向上を図る。

○成果の意義と今後の課題

- 1 運動好きな子供の増加と保護者、保育士の運動に対する意識の変容
- 2 全保育園全保育士の運動指導技術の高レベルでの標準化

○ 研究内容

【運動あそびタイムの様子①】

姿勢やスペースなど動的感覚を刺激する移動運動



【運動あそびタイムの様子②】

新聞紙を使った投動作に関する操作運動



【親子体操の様子】

家庭でもできるあそびを紹介し運動を促進



【保育士研修の様子】

安全に楽しくおこなう運動指導技術の共有化



【実践プログラムの検証】

子供の身体活動量の変化や動作の獲得状況など

- 1) アンケート調査 保育士、保護者、子ども（別紙⑥）
- 2) 子供の基本的な動作の獲得状況の変化 走・跳・投、とび箱（別紙⑦）
- 3) 歩数計による子どもの身体活動量の計測（別紙⑧）

【事業終了後の取り組みの方向性】

有意義なあそびや運動指導技術の共有化へ向けて

本事業を実施する中で、子供に実際に対峙する保育士の意識が大きく変容した。具体的には、保育士自ら研修グループをつくり、それぞれ「運動あそび」「伝承あそび」「リズムあそび」に分かれて、より良い情報を共有し、日々の保育に役立てている。今後は、有意義な運動あそびの様子や運動指導技術を映像化し、より多くの子供に携わる大人と共有したい。